

SCHEDULE 7→9月

展覧会スケジュール

“エモさ”を感じに出かけよう。

2023	7月	8月	9月	Webサイトもチェック!
大阪市立自然史博物館 大阪市東住吉区長居公園1-23 TEL:06-6697-6221 開館時間:9:30~17:00 (入館は閉館の30分前まで) 休館日:月曜(祝日・休日の場合は翌平日、ただし8/7、14は開館)、年末年始	7/7~9/24 特別展 「恐竜博2023」 鑑竜史上最高の完全度と謳われるズール・クルリヴァスタルの実物化石を中心に、「攻・守」をキーワードに恐竜たちの進化を読み解きます。 			
大阪市立科学館 大阪市北区中之島4-2-1 TEL:06-6444-5656 開館時間:9:30~17:00 (展示場入場は16:30まで、プラネタリウム最終投影は16:00から) 休館日:月曜(祝日・休日の場合は翌平日、ただし8/14は開館)、8/29 ※11/6よりリニューアル工事等のため長期全館休館	7/7~9/24 特別展 「恐竜博2023」 鑑竜史上最高の完全度と謳われるズール・クルリヴァスタルの実物化石を中心に、「攻・守」をキーワードに恐竜たちの進化を読み解きます。 	8/27 企画展 「プラネタリウムの歴史と大阪」 誕生100周年を迎えたプラネタリウムの歴史と、大阪に登場した日本初のプラネタリウムについて紹介します。 8/30~11/5 プラネタリウム 「土星～白い氷が彩る世界」 サイエンスショー 「水の科学」 プラネタリウム 「宇宙ヒストリア～138億年、原子の旅～」		
大阪歴史博物館 大阪市中央区大手前4-1-32 TEL:06-6946-5728 開館時間:9:30~17:00 (入館は閉館の30分前まで) 休館日:火曜(祝日・休日の場合は翌平日、ただし8/15は開館)、年末年始	6/28~10/2 特集展示 「ナニコレ?のこうこがく」 なにわ歴史博のコレクションを「ナニコレ?」といいながら見て回る、考古学のクイズラリー的展示です。色、素材、形などさまざまなモノを集めます。  			
大阪中之島美術館 大阪市北区中之島4-3-1 TEL:06-6479-0550 開館時間:10:00~17:00 (展覧会会場への入場は閉場の30分前まで) 休館日:月曜(ただし7/17、9/18は開館)、年末年始	7/13~9/14 「Parallel Lives 平行人生—新宮晋+レンゾ・ピアノ展」 関西国際空港の建築家、レンゾ・ピアノと風のアーティスト、新宮晋の2人のコラボ作品を中心に彼らの創作活動をご紹介します。 	7/8~9/18 「民藝 MINGEI —美は暮らしのなかにある」 民藝について「衣・食・住」をテーマにひも解き、暮らしで用いられてきた品々約150件を展示します。 		
大阪市立美術館 大阪市天王寺区茶臼山町1-82 (天王寺公園内) TEL:06-6771-4874	改修工事のため2025年春(予定)まで休館 ▶ 休館中もオンラインイベントなどを開催予定!			
	熊本に貸出中! 熊本県立美術館 特別展 「美をつくし—大阪市立美術館コレクション」 大阪市立美術館の所蔵作品の中から厳選された約150件を、熊本県立美術館でご覧いただけます。 	9/16~11/12		
大阪市立東洋陶磁美術館 大阪市北区中之島1-1-26 (中央公会堂東側) TEL:06-6223-0055	改修工事のため2024年春(予定)まで休館 ▶ イベントの詳細や視聴方法はWebでチェック!			
	福岡に貸出中! 九州国立博物館 特別展 「憧れの東洋陶磁—大阪市立東洋陶磁美術館の至宝」 大阪市立東洋陶磁美術館所蔵の名品88件を中心とした全110件により日本が憧れた東洋陶磁の世界を紹介します。 	7/11~9/3		

OSAKA MUSEUMS

見て、感じて、
開け好奇心。

VOL. 25
2023.7→9
TAKE FREE



ミュージアムから香る、
甘く切ない物語。

OSAKA MUSEUMS
vol.25

次号vol.26は
2023年9月発行予定です



2023年6月20日発行
発行/(地独)大阪市博物館機構
大阪市中央区大手前4-1-32 大阪歴史博物館内
TEL:06-6940-4330(代表)
制作/(株)ウィルコミュニケーションデザイン研究所



アンケートにご協力ください
抽選で10名に大阪歴史博物館の
常設展示招待券をプレゼント!



時

薬研・薬研車の見学は
9/29(金)まで
事前電話予約にて
詳しくは
7ページへ



無言の道具が語る、 150年前の暮らし。

ての姿を留めているこの一組は、発掘調査によって150年以上の時を経て再び地上に姿を現しました。道具は何も語りませんが、当時どのような人がどのような思いで使用したのか想像してみると、新たな“エモさ”が立ち上がってきます。

薬研車の取っ手は、発掘調査では出土しなかった。今回は撮影のために角材を使用した。実際の取っ手部分は丸くつかみやすい形状であったと考えられる。

せ、役目を終えた現在は大阪市立科学館で静かに来館者を見つめています。宇宙が今よりずっと遠い存在だった時代、人々はカールツァイスII型が映し出す星空にどんな夢を見たのでしょうか。当時の姿を想像すると、思わず“エモさ”が沸き起こります。

★地下1階プラネタリウム出口付近に展示中。



誰もが憧れた、 最新鋭の星空。

天文学の専門家の解説が聞けるため、大人もこぞって鑑賞。昭和期の天文教育普及に貢献したことから、今年3月、「日本天文遺産」に認定された。

※白文字は各部の名称を示しています。

〈薬研・薬研車〉

大阪市文化財協会

時代劇などで、医者と思しき人が何かをすり潰そうと、ローラーのようなモノをゴロゴロしているシーンに見覚えはありませんか？あの“ゴロゴロ”しているのが、舟形の薬研と、車輪形の薬研車からなるこの道具です。日本に広まった時代は不明ですが、江戸時代には主に生薬を砕くために使われ、木や石、陶磁器、金属、ガラスなどさまざまな素材で作られていました。大阪市文化財協会には、現在の大阪中之島美術館のほど近く、高松藩蔵屋敷跡から出土した江戸時代(19世紀)の備前焼の薬研が保管されています。薬を作る専用道具のイメージがありますが、調味料を挽くために使われていた可能性もあり、実ははっきりした用途は分かっていません。半分割れているものの、かつ

〈カールツァイスII型プラネタリウム〉

大阪市立科学館

子どもの頃、空の先に何があるのかと、果てしない宇宙に憧れたことはありませんか？昭和の時代、そんな子どもたちを夢中にさせたのがカールツァイスII型プラネタリウムです。昭和12(1937)年に開館した大阪市立電気科学館に設置された日本初のプラネタリウムで、地球上のいつどこから見た星空で

秘めた物語が 心を揺さぶる。

作品や展示品を観て、解説文を読んでもふむふむ…。それだけでも楽しいのですが、知られざるサイドストーリーに触れると、さらに深い感動があるもの。今号では、その奥に隠れたさまざまな「エモい」物語の世界へお連れします。



迷い込んだのは 熱気あふれるかつての大阪。

〈大阪遊覧〉

大阪歴史博物館

展示場を進んでいくと、和服姿の市場の店員に、モダンなスタイルで街を歩く女性…。いつの間にかレトロな世界にタイムスリップできるのが、7階の大大阪遊覧です。約100年前、大正時代から昭和初期にかけての大阪は面積や人口で東京を上回り、日本一の都市・大大阪と呼ばれました。この時代、大阪市は全国に先駆けて公設市場を開き、心齋橋筋は最先端のファッションが集まる流行の発信地に。都市が急速に発展するとともに、人々は環境のよい郊外での暮らしに憧れを抱き、大阪周辺地域には次々に住宅が建設されました。大阪歴史博物館では、そんな大大阪時代の熱気や活力を感じられる

↑八百屋の店内には、ピーク時間に備えて休憩を取る店主の姿が、店の裏側にも忠実に再現されている。

場面を、写真や資料などを元にほぼ原寸大で再現しています。市場は特に賑わう歳末大売り出し期間中で、伊勢エビなどの豪華な食材や、関西の雑煮に欠かせない長細い雑煮だいが並び、今にも店員の威勢のいい声が聞こえてきそう。洋服店や反物店が再現された心齋橋筋では、親子がショーウィンドーをのぞき込んでいます。和装から洋装への過渡期であったこの時代、外国製の子どもマネキンとファッションは、子どもたちを惹きつけました。

この時代をリアルに体験してなくてもどこか懐かしく、レトロな可愛さがあふれる“エモい”空間に、足を踏み入れてみませんか。

★7階「大大阪遊覧」で展示中。



懐かしのおかっぱヘアだが、当時としては斬新なスタイルで珍しがられた。



心齋橋筋でのウィンドーショッピングは当時“心づら”といって楽しまれた。

夢

きょうかい しんこつず
〈龔開 駿骨図〉

大阪市立美術館

ひどく痩せた体にツヤもなく揺れるたてがみ。浮き出た15本の肋骨が一日に千里を走る駿馬であったことを示していますが、見る影もありません。痛々しいまでの“エモい”姿に胸を締めつけられるこの絵は、中国の画家・龔開(1221~1307年頃)の作品です。宋王朝に仕えていた龔開は、モンゴル帝国が宋を攻め落とし、元へと王朝が変わってからは新王朝には仕えず、絵を売って暮らしていました。この絵には、「先朝に仕えた駿馬も今や骨ばかりとなり、憐れむ人もいない」という詩とともに自身の境遇や、宋王朝への忠誠心、異民族王朝への抵抗精神が表れています。

一見すると哀れな痩せ馬のようですが、図に続く龔開の詩には「痩せているからこそ肋骨が浮き上がり、凡馬と異なることを示しており、衰えているのは忌むところではない」との言葉。その視点で

改めて絵を見ると、漆黒の瞳にはまだ意志が残り、大地を踏みしめる四肢からは時代の風に抗う力強さが窺えます。馬の頭上に詩を書いたのは、実は龔開の没後300年以上経った頃に絵を所有していた清王朝(1644~1912年)の皇帝。その前後にもさまざまな人がこの絵に共感し、人の手に渡るたびに所有者や鑑賞者が印を押し重ね、詩を書き添えていったのです。時代を越えて愛され続けた証である印、その中心に佇む馬の姿には、哀愁とともに、己を貫き通した画家の高貴な志が漂っています。



龔開《駿骨図》
元時代・13-14世紀
大阪市立美術館蔵(阿部コレクション)
彩色を用いず、黒々とした墨で姿をとらえている。強弱のついた筆運びに、画家の息遣いまで感じることができる。

★改修工事のため休館中。
2025年春にリニューアルオープン(予定)。

痩せ馬に託したのは、亡き王朝への忠誠心。

哀

企業の栄枯盛衰を見つめた、陶磁器の名作。

儂



依壺の胴に口をつけたものを依壺と呼ぶ。本作は形が整い青味があって美しい上、卓抜な絵付けによって、韓国陶器の代表的な窯である「鶏龍山」の依壺として比類ない逸品。



写真：六田 知弘

を受けていました。しかし、隆盛を誇った安宅産業は1977年に経営破綻。これによりコレクションは一時散逸の危機に瀕しますが、住友グループから大阪市に寄贈されることとなり、展示・保管の場として東洋陶磁美術館が建設されました。

奇妙なタッチに心が揺さぶられるこの依壺も、安宅コレクションの一つ。2本の蓮のあいだに魚を狙うカワセミが舞い降り、水面を真横から見たような構図です。魚とそれを狙う鳥が表すのは、男女の関係。反対面には蓮の花に鶯が描かれており、鶯は「路」と中国語の発音が似ていることが

★改修工事のため休館中。
2024年春にリニューアルオープン(予定)。

ぶんせい てつえ れんちようぎょもん ひょうこ
〈粉青鉄絵蓮池鳥魚文 依壺〉

大阪市立東洋陶磁美術館

大阪に存在した総合商社「安宅産業」をご存知ですか?1970年代には三菱商事や住友商事と並んで日本の「十大商社」と称され、その会長であった安宅英一は事業の一環として自ら東洋陶磁の名品を収集。彼が独自の審美眼で約25年の歳月を費やして集めたコレクションは、世界的にも高い評価



いろいろな角度から
作品をチェック!



新宮晋《はてしない空》(1994年)+レンゾ・ピアノ「関西国際空港旅客ターミナルビル」(1988-1994年)4F国際線出発フロア、2016年撮影:石田俊二(RPBW) ©RPBW-Renzo Piano Building Workshop Architects

風がつかないだ
二人の出会い。

縁

〈はてしない空〉

大阪中之島美術館

図面を前に笑顔を見せるのは、風の彫刻家として知られる新宮晋と、イタリア出身の建築家レンゾ・ピアノ。二人の出会いは、関西国際空港の建設が行われていた1989年に遡ります。関空の建築家として選ばれたピアノは空港内の空気の流れにこだわったデザインを考案しますが、それが視覚的に伝わらないことから、風など自然の力を用いたアートで注目されていた新宮に「空気の流れを見えるようにしてくれないか」と依頼。初対面を果たした二人は、年齢が同じであるなどの共通点から意気投合します。当時すでに世界的な仕事を多数手掛けていたピアノは以前から新宮に注目しており、新宮もこの出会いに



新宮晋とレンゾ・ピアノ、2022年シエナ RPBWにて撮影:石田俊二(RPBW) ©Renzo Piano Building Workshop

★「Parallel Lives 平行人生 — 新宮晋+レンゾ・ピアノ展」
(7/13~9/14)にてマケットや模型を公開予定。

展覧会では二人のコラボレーション作品を
模型と映像で紹介。

〈カシパン類〉

大阪市立自然史博物館

ふっくら丸い形に、おいしそうな焼き目。明治時代に誕生したとされる甘食は、昭和時代にはおやつ定番として親しまれてきました。あまりに懐かしい“エモさ”から食べたくなりますよね。展示しているのは、甘食に形が似ている生き物の化石。棘皮動物門ウニ綱に属する、その名もカシパン類というウニの仲間の骨格です。焼き目のように見えるのは地中での着色によるものと考えられ、本来は白色をしています。ウニらしからぬ姿のカシパン類、生きているときは短トゲに覆われ、殻の上面には5枚の花びらのような模様、下の面には口があり、浅い海の砂底でプランクトンの死骸などの有機物を食べて暮らしています。名前がついた経緯は分かっていませんが、明治時代、当時売られていた菓子パン・甘食から名付けられたのではないかとされています。砂浜に落ちている殻を見て、誰かが「菓子パンみたい」と面白がっ

懐

たのかもかもしれません。

大阪市立自然史博物館に展示されているのは、大阪平野の地下から見つかった縄文時代の3種のカシパン類の化石。当時の大阪平野は海が広がり、カシパン類が暮らせる砂地の環境が整っていました。埋め立てが進んだ現在の大阪湾では、大阪府南部の砂浜でかるうじて見ることができます。カシパン類は、甘食のような懐かしくも不思議な姿に心惹かれるだけでなく、失われつつある自然の尊さを、私たちに伝えてくれます。

★1階 第2展示室
「大阪平野のおいたち」で展示中。

展示室では、「透かし」のような穴の空いたスカシカシパン、ハスの葉のようなハスノハカシパン、4つの生殖孔を持つツアナカシパンを見ることができます。

郷愁そそる、お菓子のようなその姿。



ミュージアムのお仕事

みんなで作り上げている。



館内を歩くだけでも楽しめる美術館です。ぜひお越しください。

新しい美術館での仕事は、初挑戦の連続です！

チケット関連業務や、ユニークベニューの業務を担当しています。ユニークベニューは美術館を会場としてファッションショーや映画祭などさまざまなイベントを実施いただくもので、多くの企業や地域の皆さまにご利用いただいています。2022年に開館した新しい美術館なので、私にとっても美術館にとっても初めてづくしの日々ですが、職員や地域の方々など“人とのつながり”を大切に、地域に貢献できる美術館づくりに努めてまいります。

大阪中之島美術館 事業課 中西正和さん

まだある！
ユニークで何か気になる
ミュージアムの
推しなコト。



ミュージアムのお推しごと

名作・名品のウラ側を探る！ 推しの真相

古墳に眠るのは誰？
カギを握るのは頭の欠けたニワトリ。

《鳥形埴輪》

大阪市平野区の霊園内で出土したと考えられるこの埴輪、羽や足の特徴からニワトリを象ったと判断できます。大阪は古代より都市開発が多く、古墳の実態がなかなか分からない中、古墳の墳丘に据えられるニワトリ形の埴輪が見つかったことは貴重な手掛かり。古墳が作られた年代や被葬者を解き明かすヒントになります。今後の研究で、さらなる真相が明らかになるのではと期待されています。



朝を告げるニワトリ。権力者は時間までも支配したのか？

★特集展示
「ナニコレ?のこうこがく」
(~10/2)にて公開。

コレクターズアイ COLLECTOR'S EYE

ユニークかつ上品なデザインはプレゼントにもおすすめ



作品の繊細さをそのまま表現。
“飾る”要素ももったしおり。

しおりほん
SEE OH! Ribbon
2種(青銅器・猿) / 各¥1,900(税込)

オンラインショップにて販売中！



青銅器や銅鏡と北宋の画家・易元吉の「聚猿図」をモチーフにした、大阪市立美術館オリジナルのしおり。繊細なデザインで戯れる猿の表情などが再現されています。本に挟むと軽やかに揺れ、本棚にそのまま飾れば読書中の本がひと目で分かるかわいい目印に。リボン状の台紙からハサミで丁寧に切り取り、しおりが完成！そのひと手間まで愛着の湧くアイテムです。



大阪府では準絶滅危惧種に指定されているよ。

つぶらな瞳がぎゅるん！
河川敷に潜む小さなアイドル。

「大阪の自然誌」の《カヤネズミ》

花と緑と自然の情報センター1階「大阪の自然誌」コーナーの「淀川のヨシ原」のジオラマをよく観察すると、かわいい姿が隠れています。ここにいるのは、日本で一番小さいネズミの仲間、カヤネズミ。つぶらな瞳にキュンとするカヤネズミたちは、河川敷などの草地で、草丈の長いイネ科植物の葉でボール状の巣を作って暮らしています。巣の実物標本も展示しているので、合わせてご覧ください。

推したくなる！

モキュンなアニマルピット

大阪市立自然史博物館

特別な場所から覗くと、
星座の絵が出現！？
《偏光ステンドグラス》

入り口頭上の、一見何の変哲もないガラス。実は特定の場所から見ると星座の絵が浮かび上がります。入り口のガラスには光の波の向き(偏光)を変える「偏光板」が貼られ、さらにその上に透明テープを重ね貼りして星座が描かれています。館内に設置されたもう1枚の偏光板を通したときだけ、絵を見ることができるとのことです。



大阪市立科学館

見どころ

映えなView

色あざやかな星座が出現！



偏光ステンドグラスを楽しめるのは館内5カ所！

知りたい気持ちに 学芸員がお答え！ オタクキュー

絵が描いてある方が正面？

Q 壺や茶碗の「正面」って
どうやって決めているの？

A 陶磁器がもっとも美しく見える位置が正面となります。絵付や文様が施されていれば、それによって正面が決まります。模様がない場合は形状、例えば(はし)把手*や注ぎ口を手掛かりに正面を決めます。ほかに、「景色」に注目することもあります。景色とは、陶磁器に現れた釉薬の変化による見どころのこと。展示の際は、1ミリずれるだけでも印象が変わってしまうため、ミリ単位の調整でベストな位置を決めています。リニューアルオープンの際にはぜひ、珠玉の陶磁器作品の「正面」の美しさを鑑賞してください。

※手に握る部分、取っ手

回答担当：因幡 聡美さん(学芸員)

大阪市立東洋陶磁美術館

発掘調査によって出土した大阪の文化財を見ることができる！

大阪市文化財協会



〒540-0006
大阪市中央区法円坂1-6-41
開館時間/9:00~17:00
休館日/土曜・日曜・祝日、
年末年始

見学は電話での事前予約をお願いします。
TEL:06-6943-6833

